

第1回 鶴岡市内の県立高校再編整備に係る関係者懇談会 記録（概要）

1 日時 平成30年8月1日（水）14:30～16:15

2 会場 鶴岡市朝暘武道館 会議室

3 参加者 委員 阿部敬子、岩田瑛子、尾形圭一郎、小川雅子、菅原弘昭
高橋たず子、藤野淳（五十音順、敬称略）
事務局 坂尾高校教育課長
須貝高校改革推進室長、伊藤高校改革推進室室長補佐
安達高校改革主査、奥山高校改革主査、丹野高校改革主査

4 内容

- (1) 県教育委員会あいさつ
- (2) 設置要綱の説明及び委員の紹介
- (3) 座長選出
- (4) 座長あいさつ
- (5) 説明・質疑応答
 - ① 田川地区の県立高校再編整備に係るこれまでの経緯について
 - ② 田川地区の県立高校再編整備計画＜第2次計画（案）＞について
 - ③ 田川地区の高校再編整備計画 対案との比較について
- (6) 協議
 - ① 懇談会の今後の進め方について
 - ② その他

5 発言要旨

- (5) 説明・質疑応答
 - ① 田川地区の県立高校再編整備に係るこれまでの経緯について
(委員)
 - 併設型中高一貫校のメリットは分かったが、高校段階からこの学校に入る生徒にとってメリットはどんなものがあるのか。
(事務局)
 - 併設型中高一貫校であることは別として、この高校自体の魅力が、この高校を選ぶ一番の動機づけになるだろう。併設型中高一貫校であることのメリットもある。例えば、異年齢集団で、中学生をいかにリードするか、どう支えるか、どう教えるかを学ぶことができる。また、併設型中学校で力をつけてきた内進生と同じ環境で学ぶこと、競争することで、自分を高めることができる。互いに違う環境で学んできた生徒同士が互いに刺激し合うことは、併設型中高一貫校の魅力である。
 - ② 田川地区の県立高校再編整備計画＜第2次計画（案）＞について
(委員)
 - 田川地区の高校を卒業した生徒の進路の傾向は、どのようになっているのか。

(事務局)

○ 今春の卒業生の進路の状況について説明する。

鶴岡南高校 : 大学 90%程度、専修学校等 10%程度、就職 1%程度

鶴岡北高校 : 大学 65%程度、専修学校等 30%程度、就職 6%程度

鶴岡工業高校(全日制) : 大学 6%程度、専修学校等 8%程度、就職 85%程度

鶴岡中央高校 : 大学 35%程度、専修学校等 35%程度、就職 30%程度

加茂水産高校 : 大学 20%程度、専修学校等 7%程度、就職 70%程度

庄内農業高校 : 大学 3%程度、専修学校等 13%程度、就職 80%程度

庄内総合高校 : 大学 20%程度、専修学校等 15%程度、就職 65%程度

となっており、これを見るとそれぞれの高校の特色に応じた進路の状況となっている。

(委員)

○ その就職先は、県内が多いという理解でよろしいか。

(事務局)

○ 県外と県内との比較だと、県内の就職が多いということになる。ただし、地区ごとの特色があり、庄内地区は県内の他地区に比べると県内の就職率がやや低いという課題がある。

(委員)

○ 資料6にある鶴岡中央高校の定員充足率について、普通科と総合学科のどちらかが定員割れしているのか。

(事務局)

○ 普通科と総合学科を合わせた充足率を示している。平成30年度は、普通科3学級と総合学科4学級で募集しているが、総合学科が160人の定員に対し、147人と定員割れをしている。普通科は120人と定員を充足している。ただし、毎年傾向が変わり、どちらかが一定して定員割れをしているというわけではない。

③ 田川地区の高校再編整備計画 対案との比較について

(委員)

○ 併設型中高一貫校の設置案に対して否定的な意見の中に、庄内地区全体からの意見を聞くべきだとあるが、鶴岡市に設置する案としたのは、鶴岡市と庄内開発協議会の要望を踏まえたもので、庄内地区全体の意見を集約したわけではないという理解でよろしいか。

(事務局)

○ 平成21年の中高一貫校の設置構想の公表後、平成22年に県立高校が設置されている2市2町との意見交換をしたが、中高一貫校の設置に積極的な意見はなかった。その後、平成26年度以降鶴岡市から、平成27年度以降庄内開発協議会から設置要望をいただいた。庄内開発協議会は庄内の各自治体による協議会という位置づけであるので、庄内地区全体としての要望をいただいたという認識でいた。

(6) 協議

① 懇談会の今後の進め方について

意見等なし。

② その他

協議題なし。